

調査速報

外食需要動向（2023年12月）

全国の実質外食支出金額は2か月連続で減少しており、年末の外食需要は弱含みとなった

主任研究員

佐橋 官

045-225-2375

sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 2023年12月の実質外食支出金額(季調済)は、全国、関東地方とも前月比マイナスとなった。
- 全国の値は2か月連続で減少したことから、総じてみれば、繁忙期である年末の外食需要は弱含み。
- 2024年年初には能登半島地震が発生するなど、年始も外食需要には停滞感が漂う。物価の上昇を価格に転嫁する動きが続く一方で、価格競争も激化しており外食業界の先行き不透明感は強くなっている。

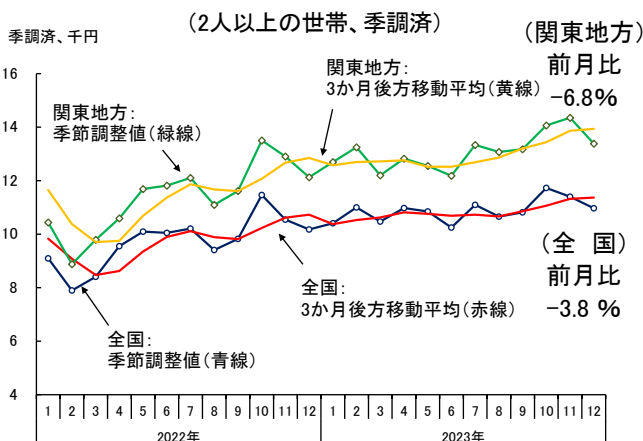
1. 2023年12月の実質外食支出金額は全国、関東地方とも前月比マイナスとなり弱さが確認される

総務省「家計調査」に基づく2023年12月の1世帯あたり実質外食支出金額（季節調整済）は、全国が前月比3.8%減（前年同月比10.3%増）、関東地方が前月比6.8%減（前年同月比10.3%増）となった(図表1)。忘年会などで繁忙期となる12月の実質外食支出（全国）が2か月連続で減少したことから、総じてみれば、足元の外食需要の基調は弱いと考えられる。メニュー価格の上昇も含めて、物価の高騰が外食支出を抑制しているとみる。2024年1月には能登半島地震の発生もあり、期待されていた年末年始の外食需要は盛り上がりを欠いて終わる可能性が高い。

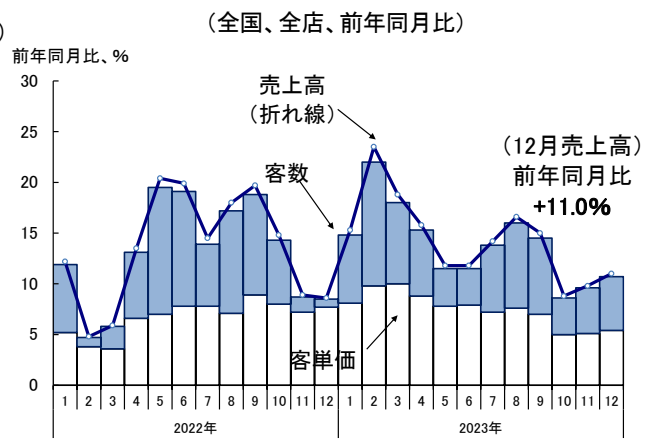
2. 外食産業売上高の伸び率は2024年1月以降に前年割れする可能性が出てきた

一般社団法人日本フードサービス協会が集計している2023年12月の外食産業売上高（名目値）は前年同月比11.0%増となった(図表2)。売上高の増減要因を分解すると、客数は同5.3%増、客単価は同5.4%増となった。振り返ると2023年は、1月以降に新型コロナの「5類」移行の議論が始まり、実質的に行動制限が解除されたことで客数が伸び、メニュー価格の値上げによって客単価も高まるなど、客数、客単価ともに前年比で高い伸びが続いてきた。しかし、2023年10～12月はそうした動きが収束しつつある。前項の実質外食支出の伸び悩みを見る限り、今後は物価の高騰が需要を抑制している実態が表面化してくる可能性が高いとみる。前年の水準が高まる2024年1月以降は、客数が前年水準を割り込む局面も出てこよう。

図表1 実質外食支出金額は前月比マイナス



図表2 外食産業売上高は前年同月比ベースでは堅調



3. 価格転嫁による値上げが続く一方で価格競争が激化しつつある

2023年12月の業態別の客数をみると、ファストフードが前年同月比3.7%増と伸び悩む中、パブ・居酒屋が同10.2%増、ファミリーレストランが同9.4%増となるなど、ばらつきが大きくなった（図表3）。ファストフード業態の客数は、持ち帰り米飯／回転寿司で同2.0%減となり、ハンバーガーチェーンなど洋風ファストフードも同1.8%増にとどまるなど、コロナ禍で需要が集中していた反動もあり伸び悩みが顕著となった。他方、忘年会やクリスマス、帰省などにより飲食店での会食や飲酒機会が増加したことで、外食業態の中でも最も回復が遅れていた居酒屋業態などの業況の回復が進んだといえよう。

1月に入ってもハンバーガーチェーン最大手が値上げを発表するなど、価格転嫁の動きは続いている。ただし、前頁で述べたように、2023年12月の全国の実質外食支出金額は2か月連続の減少となっており、物価高騰により外食需要は弱含みである。先月の当レポートで報告したように、業態によっては物価上昇局面で値下げを断行して集客を図るチェーンも登場するなど、価格競争は激化しつつある。

今後は個社ごとのマーケティングによる差別化、特色づけなどが業況を左右する局面に入るとみられる。また、元日に発生した能登半島地震も年初の繁忙期の外食業界に不透明感を与えている。今後は被災地の応援キャンペーンなどによる外食需要の喚起や、実際に被災地食材の需要を後押しする取り組みもおこなわれると考えられる。それら各社の創意工夫や被災地支援の動きによる外食需要の拡大に期待したい。

図表3 外食産業売上高(2023年12月、全国、全店)

業 態	店舗数	(前年同月比増減率)		
		売上高	客数	客単価
全 体	36,707	11.0%	5.3%	5.4%
ファストフード	21,417	9.5%	3.7%	5.6%
洋 風	6,434	9.7%	1.8%	7.7%
和 風	5,134	13.6%	7.1%	6.1%
麺 類	3,138	10.8%	5.4%	5.1%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,285	2.6%	-2.0%	4.7%
その他	2,426	9.7%	8.8%	0.8%
ファミリーレストラン	10,322	12.4%	9.4%	2.7%
洋 風	5,173	12.0%	10.6%	1.3%
和 風	2,494	13.8%	6.6%	6.8%
中 華	1,227	13.1%	10.9%	2.0%
焼き肉	1,428	11.0%	4.2%	6.5%
パブ・居酒屋	1,824	18.2%	10.2%	7.3%
パブ・ビアホール	386	17.4%	8.1%	8.6%
居酒屋	1,438	18.6%	11.4%	6.5%
ディナーレストラン	963	13.9%	7.4%	6.0%
喫茶	1,908	13.3%	5.1%	7.8%
その他	273	11.6%	6.9%	4.5%

注1: 全店とは、既存店と新規店の合計。

注2: 売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。

注3: 売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。

出所: 一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

本レポートは、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると判断した情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。ご利用の際は、最新の情報をご確認くださいようお願いいたします。